

特別講演会

「瀬戸内海を取り巻く海洋政策の動向」～海洋基本計画と里海づくり～ 開催結果概要

日 時：平成31年1月22日（火）13時30分～16時30分

会 場：ラッセホール 2F ルージュローズ 神戸市中央区中山手通 4-10-8

参加者：67名

1. 開会あいさつ

公益社団法人瀬戸内海環境保全協会 神田常務理事より、講演会の開催経緯・趣旨を説明した。（添付配布資料の開催趣旨参照）

2. 講演・質疑概要（講演内容詳細は添付配布資料参照）

基調講演

演 題：「海洋基本法と海洋基本計画の進展」

講 師：公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所 参与 寺島 紘士 氏

質 疑：

- Q) 第2期の海洋基本計画の評価の中で、排他的経済水域での開発等の推進について課題が多いとのことだが、瀬戸内海などローカルな視点で具体的には何ができるか教えて欲しい。
- A) 瀬戸内海や東京湾、有明海のようなところは瀬戸内法など法律や枠組みができてきているが、それより小さな地域ではその時の盛り上がりで議論し、問題が解決・軽減されるとそれで終わってしまうため、同じことが他の地域で起こってしまう。制度的な仕組みを作り、管理だけでなく支援することが大事である。その意味では排他的経済水域については我が国ではその仕組みができていない。沿岸域の総合管理についても、国際的には仕組みが提起され共有されているが、我が国はまだ明確ではない。その点では瀬戸内法は、日本の模範となる。備前市の日生の事例などがもう少し共有されると良いと思う。

講演1

演 題：「海洋基本計画と海洋産業について」

講 師：一般社団法人海洋産業研究会 常務理事 中原 裕幸 氏

質 疑：（なし）

講演2

演 題：「海洋環境の維持・保全と具体的施策について」

講 師：広島大学名誉教授（海洋環境 PT 有識者）松田 治 氏

質 疑：

- Q) 沿岸域の総合管理のところでたトップダウン型でもなくボトムアップ型でもなく、トップダウンとボトムアップをバランスよくとったより詳しく教えて

欲しい。

- A) その中間をとるという意味でなく、トップダウン型だけでは人が動かない、ボトムアップ型だけだと予算が取れないといったことがあるので、両方の長所を生かしてすり合わせるという意味です。

講演 3

演 題：「海洋人材の育成と国民の理解 ～学校教育を中心に～」

講 師：公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所 事業企画部長 酒井 英次 氏

質 疑：

- Q) 地域の活動の中で最も重要なのが人材であり NPO を立ち上げて先生方と協力して支援について取り組んできたが、その中で最も問題となるのは資金である。支援団体からの支援はどこも 3 年であり、一度不採択になると次につながらない。

また人材についても応募されるのは 65 歳以上の OB が多く、口だけでなく手を動かせる 30・40 歳代が集まらない。アンケートにも手が足らないとあったが、外部からの講師又は応援する手立てはないか。

- A) 資金については一番難しい問題。我々の支援プログラムでは、全国で行われていないものを形にしていくために、その活動を立ち上げるため最も費用の掛かる教材・人等のイニシャルコストに対して 3 年間支援している。3 年過ぎてどのように自走できるかは相談しているが、予算が少ない中、国の予算も 3 千万しかなく、次の別の支援の立ち上げに使っている。自走の話はまさに人材の話になるが、このランニングコストをどう抑えるかは、これから広く議論しながら枠組みを提言していくことかと思っている。

3. 閉会あいさつ

公益社団法人瀬戸内海環境保全協会 賛助会員部会泉部会長(いであ(株)大阪支社 執行役員)より、閉会にあたり参加者への御礼、ご講演の講師各氏への御礼と、このような全国レベルの講演が関西で開催された意義を述べられた。